

音楽芸能スタッフ科 PAコース  
1年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	一般教養 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
講義	舞台知識 I	68	2	4
講義	PC 知識 I	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	68	2	4
実習	サウンドアナライズ I	68	2	2
実習	イクイップメント I	68	2	2
演習	スタッフワーク基礎 I	68	2	4
演習	スタッフワーク応用 I	68	2	4
演習	PA 基礎 I	68	2	4
演習	PA 応用 I	68	2	4
講義	業界知識 I	72	2	4
合計		888	26	46

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
<p>①企業に就職するために必要な知識とスキルを身に付けるための授業を行う。                  ②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。                  ③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け将来の自分、自分の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようになる。                  ・身だしなみ、挨拶の仕方や正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールなどビジネスマナーの応用知識を身につける。                  ・就職活動における履歴書及びエントリーシートの完成度を高めるとともに面接対策なども実施する。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の第一印象は？、信頼印象力</li> <li>キャリアビジョン(目標設定)</li> </ul>
【前期】 4～7回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>マナーとは？、マナーの5原則</li> <li>就活の身だしなみ</li> </ul>
【前期】 8～10回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語)</li> <li>敬語を使った自己紹介文作成</li> </ul>
【前期】 11～13回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話対応。(かけ方、受け方、取り次ぎ方)</li> <li>就活についての基本事項、企業研究</li> </ul>
【前期】 14～17回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。</li> </ul>
【後期】 18～20回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアビジョン(自己分析)</li> <li>自己PR、志望動機作成</li> </ul>
【後期】 21～24回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>履歴書作成</li> <li>エントリーシート作成</li> </ul>
【後期】 25～27回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般常識、SPI対策</li> </ul>
【後期】 28～30回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接対策</li> </ul>
【後期】 31～34回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。</li> </ul>
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ることで、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいかについて考え、自己成長につなげて行く。更に、キャリアビジョンについて考えることで自分の目標設定ができ、これからの学内での2年間をどのように過ごすのか、どういう姿勢で授業に取り組むのかを考えることができる。
備考	特になし。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。</p> <p>②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・音楽史を学ぶ事により、数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、それぞれの現場において、演者が目指すであろう音楽像を、様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や、技術提供を通して、音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。</p> <p>・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 5～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～11回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 12～14回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 15～18回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 19～21回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 22～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知るとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	舞台知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 <span style="float:right">該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/></span>				
担当講師 実務経歴	<p>■ドラムの講師、楽曲制作とアーティストの面から舞台音響、照明、シナリオ作成、舞台進行を行う。</p> <p>■SAX奏者として活躍後舞台音響技術者として活躍。公共ホールなどで舞台運営業務に従事する。</p>				
<b>授業概要</b>					
<p>①演劇、音楽、舞踊、演芸、伝統芸能など舞台業界裏方として会館、公共文化施設、ホール、演芸場、ライブハウス等への出入りの際最低限の電気に関する知識の習得、劇場、ホール等の舞台機構や公演製作等の基礎知識を学び舞台技術基礎を取り入れる事により現場でのコミュニケーションを円滑にし、優れた創造性の基盤をつくりあげる。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・様々な音響照明舞台現場に於ける一般常識やエンターテインメント業界の裏側の一般的な知識を身に付け校外現場にも対応可能にし社会人として業界人として活躍出来るよう学習する。</p> <p>・実際に民間劇場での実習を行い様々な用語舞台設備等の確認、現場にて劇場等での電気に対する理解を深める。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	電気・電流に関する講義① ・電気とは？
【前期】 4～7回目	電気・電流に関する講義② ・感電の恐怖及び対策。
【前期】 8～10回目	電気・電流に関する講義③ ・電気極性について。
【前期】 11～13回目	電気・電流に関する講義④ ・電流について。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合格を決める。
【後期】 18～20回目	劇場舞台に関する講義① ・劇場舞台での電源の取り方。
【後期】 21～24回目	劇場舞台に関する講義② ・劇場舞台照明電源について。
【後期】 25～27回目	劇場舞台に関する講義③ ・劇場舞台に必要な電気知識。
【後期】 28～30回目	劇場舞台に関する講義④ ・舞台全般電気知識を極める。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合格を決める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	エンタメに関わる人材として安全面は最重要事項です。電気の特性を理解し、電気知識の学習にしっかりと励んで下さい。
備考	舞台技術の共通基礎

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
①情報リテラシーとして肖像権、パブリシティ権、著作権、知的財産権等についての講義をする。 ②表計算ソフト(EXCEL)を使って、資料を分析する問題(主に国家公務員試験の過去問を使用)を解く。 ③プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使い方を知るために、検定試験の問題を解く。					
<b>到達目標</b>					
①情報化社会におけるリテラシーを学び、ネット社会の光と影を学び、将来にわたり安全にネットを使えるようにする。 ②今後の仕事上、様々な場面で表計算ソフト(EXCEL)を使用することが多くなると予想されるので、その使い方の基本とどのように使えば良いのかの応用を学び、スムーズな社会生活を送れるようにする。 ③自分の意見や考え方を発表するプレゼンテーションをスムーズに出来るように、そのソフトPowerPointの使い方の基本を学び、将来に役立たせる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	著作権法の目的、著作物の要件、著作物の種類、著作者とは(著作者、共同著作)、職務著作、映画の著作者、著作者人格権、保護期間、著作隣接権、著作権侵害されたときの対処法
【前期】 4～7回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:PART1 例1～例5
【前期】 8～10回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:問1～問3
【前期】 11～13回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:問4～問6
【前期】 14～17回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト:PART2 問7～問10
【後期】 18～20回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問11～問14
【後期】 21～24回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問15～問18
【後期】 25～27回目	「データ分析NO3(情報分析の仕方)」のテキスト: 問19～問22
【後期】 28～30回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問23～問26
【後期】 31～34回目	プレゼンテーションソフトの使い方:検定試験の問題を解く
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	上記講義内容を基本としますが、IT社会の基本としての講義(光や色の三原色、音の基本、動画の基本など)を入れ込み広い知見を得られる授業にしていきます。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。 上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。				
授業概要					
<p>①音と電気の関係性にふれ、実用性について学ぶ。</p> <p>②授業内でマイクを使った、セッティング、録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。</li> <li>スピーカー、ダイナミックマイクやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。</li> <li>最終的には、総合的に音響のシステム構造を理解する事を到達目標としている。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音響の基礎用語。音の性質。
【前期】 4～7回目	電気基礎：電圧・電流・抵抗・電力について。
【前期】 8～10回目	電気基礎：並列・直列など、回路と分流について、ケーブルの種類、特性に関して。
【前期】 11～13回目	デシベルと音圧について。電圧比およびdb計算について。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	マイクの仕組みについて、ダイナミックマイクについて。
【後期】 21～24回目	コンデンサーマイクについて、ミキシングコンソールについて。
【後期】 25～27回目	パワーアンプ・スピーカーやイコライザーなど各種エフェクターについて。
【後期】 28～30回目	ブロックダイアグラムについて①、ブロックダイアグラムについて②
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解 / 機材操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材全般に関して、専門的知識を知識を習得します。機材の特徴を知ることによって、様々なシチュエーションでそのシチュエーションに適した機材のセッティングができるようになります。
使用教科書	授業毎に講師作成の資料を配布。

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズ I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディードなど多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからバラシ、スタジオ実習に関する実習を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①クラシック、ジャズ、ブルース、ロックやポップスなど幅広いジャンルの曲を分析し、サウンドにおける特徴を学びます。</p> <p>②使用されている楽器や機材、バランスや定位、イコライジングや各種エフェクト効果などについて分析し、楽曲の制作過程における手法及び技術を学びます。</p> <p>③楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析できるようになる。</p>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽史的、音楽理論的な観点の基礎を把握し、身につける。</li> <li>・音楽分析の手法とその目的について正しく理解し、生かすことができる。</li> <li>・音楽分析を通して楽曲に対する解釈を広げ、受容することができる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽分析についての基礎学習 音楽理論的観点からの分析方法の考察・実践
【前期】 4～7回目	西洋音楽における形式の分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【前期】 8～10回目	西洋音楽における主題の分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【前期】 11～13回目	西洋音楽における旋律の分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 18～20回目	西洋音楽における和声の分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【後期】 21～24回目	西洋音楽における対位法的な分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【後期】 25～27回目	西洋音楽におけるリズムの分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【後期】 28～30回目	西洋音楽における楽器法、管弦楽法、ダイナミクス、フィギュラリズムなどについての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現代の音楽がどこからきたのか、またどの様に成り立っているのかを西洋音楽の音楽分析の視点から見ていきましょう。音楽への理解がより深まればさまざまな音楽活動の一助となるはずです。
使用教科書	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響システム I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメント I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブックイングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。 上記の経験を活かし音響システムに関する講義を行う。				
授業概要	<p>①アナログの音響卓の操作。 ②ミキシングコンソールやスピーカーをはじめ、その他周辺機器の知識/取り扱いを学び、音響システムの仕組みを理解する。</p>				
到達目標	<p>・音響のシステムを学び、色々な視点から仕組みを理解していきます。実際に音響機材に触れ、構造や用途・特徴などを学ぶ。 ・実技授業や実際の現場の際に、的確なセッティング・状況に応じた機材選びやマイキングなどがスムーズに行うことができるよう学ぶ。 ・様々な機材との組み合わせや、毎回違う現場に対応できるよう機材の特性・しくみを理解する。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	マイク・D.I・スピーカーなどを分解し、構造・性質・特性を学ぶ。
【前期】 4～7回目	ギターアンプ・ドラムセットなどのマイキングをより細かく学び、状況に応じたセッティングを学ぶ。
【前期】 8～10回目	的確なチューニング・レベルの取り方を学ぶ。
【前期】 11～13回目	ワイヤレスマイク・ワイヤレスイヤモニの周波数帯域を理解し状況に合わせたプランを学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 18～20回目	前期おさらい～PA周りの電源・楽器周りの電源について学ぶ。
【後期】 21～24回目	小型スピーカー～大規模スピーカーの構造・設置方法・状況などを理解する。
【後期】 25～27回目	後期LIVE WEEKに向けてのプランニング①
【後期】 28～30回目	後期LIVE WEEKに向けてのプランニング②
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	定番のアナログミキシング・コンソールから、世界的に有名なアーティストのツアーなどでも使用されている最新のデジタルミキシング・コンソールの基本的なオペレート技術を習得していきます。ハウスオペレーターとしてだけでなく、モニターオペレーターとしてモニターミキサーのオペレートやステージマンとしてステージ周辺の機材セッティングも学びます。
備考	適時プリント資料配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク基礎 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ライブホールのサウンドエンジニアとして20年以上従事後、現在はフリーランスとしてライブ、フェスや講演会など年間100本以上のPA業務に携わる。 上記の経験を活かしPAIにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのPAスタッフとして必要な実技能力を養う。 ②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。
【前期】 4～7回目	楽器などの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方、PAオペレートなど。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2バンドのPAオペレート。
【後期】 21～24回目	キーボードのセッティングと音だし。音作り。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)
【後期】 28～30回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにセット図作成、見方、PAオペレート、撤収作業など。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力 / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、オペレートや撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク応用 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ライブホールのサウンドエンジニアとして20年以上従事後、現在はフリーランスとしてライブ、フェスや講演会など年間100本以上のPA業務に携わる。 上記の経験を活かしPAにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのPAスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p> <p>※スタッフワーク基礎 I で学んだ内容をもとに2コマ目として実施</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。
【前期】 4～7回目	楽器などの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方、PAオペレートなど。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2バンドのPAオペレート。
【後期】 21～24回目	キーボードのセッティングと音だし。音作り。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)
【後期】 28～30回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにセット図作成、見方、PAオペレート、撤収作業など。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、オペレートや撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート基礎 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	PA基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	専門学校卒業後、音響、楽器リペア専門会社に入社後、独立。個人機材を所有しライブ、イベント等の仮設音響業務、ライブハウスの音響管理、アーティストに帯同し乗り込みオペレーター業務、楽器メンテナンス、レコーディング業務に携わる。				
<b>授業概要</b>					
①アナログの音響卓の操作。 ②ゲインの取り方、イコライジングの考え方及び操作。 ③メインスピーカー、モニタースピーカーの設置及びチューニング。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。</li> <li>スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。</li> <li>総合的に音響のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上及びPAスタッフとして自覚の目覚めをを目標とする。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	マイク・D.I.のブランド名、種類、構造、ケーブル等の種類、構造、巻き方を理解する。PAスピーカーの種類、違いを学ぶ。
【前期】 4～7回目	アナログミキサーの構造を理解し、簡易PAシステムを構築し、音出しまでを目標に学ぶ。
【前期】 8～10回目	簡易PAシステムに各種機材を接続し、構築の応用。スピーカーのチューニング、ハウリングに対しての対応を学ぶ。
【前期】 11～13回目	簡易的な仕込み図を理解し、求められたシステムを構築できることを目標に学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して試験を行う。応用された仕込み図を理解する。
【後期】 18～20回目	前期おさらい～アナログとデジタルの操作性の違いを学ぶ。アナログ伝送と、デジタル伝送の種類、違い、利便性などを理解する。
【後期】 21～24回目	デジタルミキサーで簡易システムの音を出す。ルーティングなどを学ぶ。
【後期】 25～27回目	後期LIVE WEEKIに向けてのプランニング。
【後期】 28～30回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 31～34回目	状況に応じたデジタルミキサーでのパッチ、デジタル伝送、マルチRec等を学ぶ。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材の基本基礎をしっかり学習していただきます。前期はアナログ、後期はデジタル。基本を理解して2年に進級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
備考	適時プリント資料配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート応用 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	PA応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	専門学校卒業後、音響、楽器リペア専門会社に入社後、独立。個人機材を所有しライブ、イベント等の仮設音響業務、ライブハウスの音響管理、アーティストに帯同し乗り込みオペレーター業務、楽器メンテナンス、レコーディング業務に携わる。				
<b>授業概要</b>					
①アナログの音響卓の操作。 ②ゲインの取り方、イコライジングの考え方及び操作。 ③メインスピーカー、モニタースピーカーの設置及びチューニング。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。</li> <li>スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。</li> <li>総合的に音響のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上及びPAスタッフとして自覚の目覚めをを目標とする。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	マイク・D.I.の用途別の使用方法を理解する。PAスピーカーの内部構造、パッシブネットワーク、バイアンプ等の違いを理解する。
【前期】 4～7回目	アナログミキサーの構造を理解し、簡易PAシステムを構築し、ハウス、モニター同時の音出しを学ぶ。
【前期】 8～10回目	簡易PAシステムに各種機材を接続し、構築の応用。スピーカーのチューニングし、適切なレベル、音質を作る。
【前期】 11～13回目	応用的な仕込み図を理解し、求められたシステムを構築できることを目標に学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 18～20回目	前期おさらい～アナログとデジタルの操作性の違いを学ぶ。アナログ伝送と、デジタル伝送を混ぜ合わせたシステムの構築を学ぶ。
【後期】 21～24回目	デジタルミキサーで応用的なルーティング、音出しを行う。
【後期】 25～27回目	後期LIVE WEEKIに向けてのプランニング。
【後期】 28～30回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 31～34回目	DVSのRecデータを活用して仮想ライブMixを学ぶ。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材の基本基礎をしっかり学習していただきます。前期はアナログ、後期はデジタル。基本を理解して2年に進級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
使用教科書	適時プリント資料配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンド I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要	音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。				
到達目標	<p>前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。</p> <p>後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントターやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。